

令和2事業年度

公立大学法人尾道市立大学
業務の実績に関する評価結果

令和3年8月

尾道市公立大学法人評価委員会

尾道市公立大学法人評価委員会 委員名簿

(50音順、敬称略)

分野	氏名	現職	備考
財務	瀬戸 務	瀬戸務税理士事務所	
大学運営	高垣 孝久	尾道商工会議所常議員 商業委員会委員長	
地域貢献	豊田 雅子	NPO法人尾道空き家再生プロジェクト代表理事	
教育研究	◎萩原 泰治	神戸大学大学院経済学研究科教授	
教育研究	藤井 保	広島県公立大学法人 業務評価室長 県立広島大学 特任教授	

◎ 委員長

1 年度評価の方法について

評価の基本方法

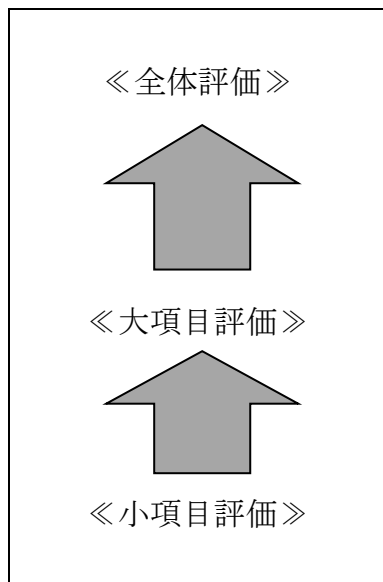
- 中期目標達成に向けた事業の進捗状況を確認する観点から評価する。
- 先進的・特徴的な取組や運営の改善を積極的に評価する。
- 法人化を契機とする大学改革の取組を支援する観点から評価する。
- 取組状況等を市民に分かりやすく示す観点から評価する。

評価の方法

- 年度評価は、「全体評価」と「項目別評価」により行う。
- 「全体評価」は、「項目別評価」の結果を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について、次の事項を総合的に評価する。

- (1) 理事長のリーダーシップによる機動的・戦略的な大学運営を目指した取組
- (2) 社会に開かれた大学運営を目指した取組
- (3) 大学の教育研究、地域貢献等における特色ある取組
- (4) 業務運営等の改善及び効率化並びに財務状況の改善に関する取組
- (5) 自己点検・評価及び情報公開に関する取組
- (6) その他必要と認められる事項

- 「項目別評価」は、「小項目評価」及び「大項目評価」により行う。
- 「小項目評価」は、法人の自己評価結果の検証・評価を行う（4段階）。
- 「大項目評価」は、「小項目評価」の結果を踏まえ、中期計画の大項目ごとに総括評価を行う（5段階）。



【小項目評価】

評点

- 4 年度計画を上回って実施している。
- 3 年度計画を順調に実施している。
(達成度が概ね9割以上)
- 2 年度計画を十分に実施していない。
(達成度が概ね6割以上9割未満)
- 1 年度計画を実施していない。
(達成度が6割未満)

【大項目評価】

評点

- S 特筆すべき進行状況にある。
(評価委員会が特に認める場合)
- A 年度計画を順調に実施している。
(全て3以上)
- B 年度計画を概ね順調に実施している。
(3以上の割合が7割5分以上)
- C 年度計画がやや遅れている。
(3以上の割合が7割5分未満)
- D 重大な改善事項がある。
(評価委員会が特に認める場合)

ただし、評価委員会において評価段階を1段階上下させることができる。

- 教育研究の特性に配慮すべき項目については、法人から提出された業務実績報告に基づき、事業の外形的・客観的な進捗状況の確認を行った。
- 今回の年度評価の結果が今後の法人及び大学運営に積極的に活用され、「地域に根ざした、市民から信頼される大学」の実現に向けて、教育、研究及び地域貢献が一層充実することを期待する。

2 全体評価

尾道市立大学は、「知と美の探究と創造」を建学の基本理念として、経済情報学部と芸術文化学部の2学部を置く公立大学法人として平成24年4月に設立された。

大学を取りまく環境は、少子化と人口減少、グローバル化の進展によって大きく変化している。その中で、次代を担う若者が、確かな学力と豊かな教養、自主的に考え行動できる主体性と積極性を持つことがますます重要になっている。その認識の下、尾道市立大学は、少人数教育の特長を生かし、「何事にも好奇心を持ち、積極的にチャレンジできる学生が育つ大学」「一人一人が成長を実感できる大学」「地域に入り、地域で学び、地域に還していく大学」の実現を目指している。

令和2年度は法人設立後9年目、第二期中期計画の第3年度であり、新型コロナウイルス感染症の影響により様々な制約を受けながらも、教育、研究、地域貢献、国際交流、自己点検・評価の各分野における重点取組項目に従って、理事長を中心に自律的で効果的な事業実施が進められた。

令和2事業年度の業務の実績については、6つの大項目のうち、4項目がA評価（年度計画を順調に実施している。）、2項目がB評価（年度計画を概ね順調に実施している。）となっており、特徴のある取組として、次の事項が挙げられる。

- ① 新型コロナウイルス感染症の影響により人が集まる研修、行事等の開催が困難になったものについて、オンラインを活用した方法に変更し、成果を上げるよう努めた。
- ② 新型コロナウイルス対策を兼ねてオンラインによるオープンキャンパス「オープンデイズ」を開催し、学科紹介動画・入試説明動画・研究紹介動画・新任教員紹介動画・研究室紹介記事等を、特設ページに掲載した。
- ③ 新型コロナウイルス感染症の影響でオンライン形式となった夏季短期語学研修について、ベトナム貿易大学に2名、中国の首都師範大学に2名、アメリカポートランド州立大学に3名の学生が参加した。
- ④ 再来年度受審予定の外部認証評価に関し、円滑かつ効率的に対応できるよう、準備年を前にオンラインで、受審予定機関の講師による全教職員を対象とした学内研修を実施した。

第二期中期計画に掲げた重点課題の達成に向け、令和2年度年度計画の着実な実施に取り組んでおり、年度計画を概ね順調に達成するとともに、中期計画全体の推進が図られたものと評価できる。

令和3事業年度は、これまでの取組から明らかになった重点的項目及び課題を踏まえて、第二期中期目標の着実な達成に向け、年度計画及び中期計画を推進されることを期待する。

[大項目評価結果]

	S 特筆すべき進行状況	A 計画どおり	B 概ね計画どおり	C やや遅れている	D 重大な改善事項あり	小項目評価結果 (評点 (項目数))
第4 教育研究等の質の向上	S	A	B	C	D	4 (4) 3 (90) 2 (9) 1 (4)
第5 地域貢献及び国際交流	S	A	B	C	D	3 (11) 1 (2)
第6 業務運営の改善及び効率化	S	A	B	C	D	3 (5)
第7 財務内容の改善	S	A	B	C	D	3 (4)
第8 自己点検・評価及び情報の提供	S	A	B	C	D	3 (4)
第9 その他業務に関すること	S	A	B	C	D	3 (5)

中期目標・中期計画の主要な進捗状況等については、次のとおりである。

(1) 理事長のリーダーシップによる機動的・戦略的な大学運営を目指した取組

次の事項については、理事長のリーダーシップによる取組として評価できる。

- ア 前期の学生のプレゼンテーションを伴う講評はオンラインで、後期の講評（同じく学生のプレゼンテーションを伴う）は対面とオンラインを併用し、Teams を使用したリアルタイム配信を試みるといった工夫を行うなど、課題内容や学生の受講状況に即した形で実施した。
- イ アクティブ・ラーニング的な手法による教育活動の情報共有、研究授業については、教育研究推進協議会実施の、ファカルティ・ディベロップメント研修の形で学内のオンライン学修の優れた取組例の紹介を通してアクティブ・ラーニング的な活動を促す事例が共有された。
- ウ 前期は遠隔授業であったため、アトリエに出向いての個別指導はできない中で課題提示や質疑応答、講評を含めたオンライン・対面での学生とのコミュニケーションや、課題の提出状況によって要対応学生の発見に努め、コース及び学科で情報共有し、当該学生には医務室やカウンセリングと連携して対応した。

(2) 社会に開かれた大学運営を目指した取組

次の事項については、社会に開かれた大学運営を目指した、市民や社会に対する説明責任を果たす取組として評価できる。

- ア 新型コロナウイルス対策を兼ねてオンラインによるオープンキャンパス「オープンデイズ」を開催し、学科紹介動画・入試説明動画・研究紹介動画・新任教員紹介動画・研究室紹介記事等を、特設ページに掲載した。また尾大通信秋号を「コロナ対策特集号」とし、年度前期におけるオンライン授業の取組を担当教員の座談会形式で具体的に紹介した。
- イ デザインコース教員の個展開催、日本画コース教員の公募展出品及び受賞、油画コース教員のコンクール入賞、個展開催、グループ展参加、また全教員の紀要等の発信など、積極的に成果発表を行った。
- ウ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、前期は全て遠隔授業、後期は対面・遠隔併用の授業であり、学修環境の変化への適応が困難なケースの発生が予想され、そのようなケースへの支援体制を、障害学生修学支援委員会が中心となって整えた。

(3) 大学の教育研究、地域貢献等における特色ある取組

次の事項については、大学の教育研究、地域貢献等における特色ある取組として評価できる。

- ア 「第2回尾道でのひら怪談」の作品募集を行い、尾道に関連する掌編怪談作品の募集が249点あった。また尾道商業高校では国語の授業の課題として生徒に取り組んでもらい、32名から応募があった。尾道市内・市外に関わらず広く尾道の地域理解の機会を提供できた。
- イ 12月に開催された日本文学科主催の文学三昧は、オンラインでの開催とし、大学として文学を広める地域貢献となった。
- ウ コロナ禍において対面形式での企画は行えなかったが留学生向けのオンライン形式での歓送迎会を2回実施し、双方向での意思の疎通が行える環境の充実に取り組んだ。

(4) 業務運営等の改善及び効率化並びに財務状況の改善に関する取組

次の事項については、業務運営等の改善及び効率化並びに財務状況に関する取組として評価できる。

- ア 前後期の取得単位状況、GPAデータで学修不全、要対応学生の抽出作業を進めた。
- イ 遠隔講義等全業務について、見直しを図り、各部局が連携し、全学として適正な業務運営に対応した。
- ウ オンライン授業対応への設備や機材の導入、学生への教材送付等、新型コロナウイルス感染症対策に係る経費について、予算の重点化を図った。

(5) 自己点検・評価及び情報公開に関する取組

次の事項については、自己点検・評価に関して必要な取組を行っていると思われる。

- ア 外部認証評価に関し円滑かつ効率的に対応できるよう、準備年を前にオンラインで受審予定機関の講師による全教職員対象とした学内研修を実施した。
- イ 公式 Instagram 及び LINE の新設を含む各種 SNS 発信の機能強化を着実に達成することができた。Instagram においては学内の印象的な画像を投稿し、LINE ではリッチメッセージ画像での投稿を行い、既存の SNS とは違う見せ方を工夫した。

(6) その他必要と認められる事項

次の事項については、必要な取組として評価できる。

- ア 法令で定められた年次有給休暇の取得義務化（5日以上）について、教職員に周知し、満たしていない者について取得日の指定

を行い取得を働きかけた。勤務時間報告書の提出を徹底し、教職員の労働時間の把握に努め、過重労働防止を図った。

イ 新型コロナウイルス感染症対応のため、対面式の研修は減少したがオンライン研修への参加による研修機会を設け、教職員の能力向上に取り組んだ。

3 項目評価

第4 教育研究等の質の向上

評価結果 B 年度計画を概ね順調に実施している。

評価対象項目の合計107項目のうち、3以上の割合が7割5分以上であることから、大項目評価としてはB評価と認められる。

〔小項目評価結果〕

	評価対象項目数	1 大幅に下回っている	2 十分に実施していない	3 順調に実施している	4 上回って実施している
教育の質の向上に関する目標	70	3	8	58	1
研究の質の向上に関する目標	16	0	0	15	1
学生の支援に関する目標	21	1	1	17	2
合計	107	4	9	90	4

【特記事項】

1 教育の質の向上に関する目標

(1) 質の高い教育課程の編成

ア カリキュラム構成などを調整することにより学生の習熟度向上の工夫をしていることは評価できる。

イ リメディアル数学の導入により履修学生の理解度が増し、履修の途中放棄の学生数を減少できたことは評価できる。

ウ コロナ禍により個別指導ができない中でオンライン・対面での学生とのコミュニケーションを図り、要対応学生の発見に努めたことは評価できる。

(2) 幅広い視野と豊かな人間性をもち、国際的に通用する人材の育成

- ア コロナ禍において夏季受入プログラムは中止となる中で、代替手法によるプログラム調整を行い工夫したことは評価できる。
- イ 「リメディアル数学」の導入と「基礎数学Ⅰ」の開講時期を早めて習熟度の向上がみられたことは評価できる。
- ウ 「美術表現入門」においてオンライン授業の中で学生の参加を上手に促していることは評価できる。

(3) 専門的知識と能力を身につけ、社会に貢献できる人材の育成

- ア コロナ禍において様々な授業形態を踏まえできるだけ学修に有用なカリキュラムを構築すべく対応している点は評価できる。
- イ 業界研究会がオンライン開催となったことで、従来参加のなかった首都圏、関西圏など遠方の大手企業や、地元県内でもこれまであまり参加のなかった優良企業からの参加等、広域からの参加が実現し、従来以上の効果がもたらされたことは評価できる。

(4) 教育力の向上

- ア コロナ禍において見学等はできなかったが、他教員の講評に際してのコメントの文章等に繰り返し触れる機会を設けるなどの代替により、自身の教育スキルの向上に結び付けることができたことは評価できる。

(5) 学生の受入れ

- ア コロナ禍で岡山・広島・尾道（本学）三会場全てにおいて高校教諭等との懇談会は中止となったが代替手法を活用し、各校校長並びに高校進路指導教諭とのコミュニケーションを図りながら大学の概要や特徴を多くの学生や関係者に周知し、「新たな試み」を導入、遂行できた点は評価できる。
- イ Twitter や Facebook に加えて Instagram や LINE を新たに開設し、広報活動に積極的に取り組んでいることは評価できる。

(6) 大学院教育

- ア 内部進学者、留学生、社会人の院生等を対象として、指導教員を通じて研究科カリキュラムに対するニーズを調査し問題点の検討を行い、今後の方針を示したことは評価できる。
- イ コロナ禍において大学説明会は実施できなかったが、オンラインのオープンキャンパスを実施し、年間のカリキュラムや授

業・講評風景、学内各工房の設備紹介、新任教員の紹介などを行ったことは評価できる。
ウ ダブルディグリープログラムを積極的に利用し、経済情報学部の留学生が早期履修制度を利用して大学院の講義を受講したことや、学部から大学院へ進学するなど実績を残したことは評価できる。

2 研究の質の向上に関する目標

(1) 研究の活性化

- ア 国立嘉義大学管理学部の合同カンファレンスに関してワーキンググループを設置し、論文の一部が経済情報論集に投稿され刊行されたことは評価できる。
- イ 個展開催や公募展出品及び受賞、コンクール入賞など積極的に成果発表を行ったことは評価できる。
- ウ 教育研究活動に関わる情報を集約するオープンデイズページの構築が可能となったことは評価できる。

(2) 研究の実施体制

- ア コンプライアンス研修・研究倫理教育研修について、オンラインで実施したことは評価できる。

3 学生への支援に関する目標

(1) 学習の支援

- ア Teams やポータルサイトで繰り返し周知を行いアンケートへの協力を呼び掛け、アンケート回答率が7割となり従来に比べ高いものとなり、さらに集計結果を各学科の授業改善に活用できるものとしたことは評価できる。
- イ コロナ禍により学修環境の変化への適応が困難なケースへの支援体制を障害学生修学支援委員会が中心となって整えたことは評価できる。

(2) 学生生活の支援

- ア 第2回《学生生活実態調査》を実施し、学生生活全般の現状を経時的に捉えることができたことは評価できる。

(3) キャリア形成の支援

ア 卒業生を講師とし、学生が目線に立脚した講座を展開したことは評価できる。

(4) 経済的支援

ア 新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済活動の停滞により困窮した学生への支援として急遽実施した学生支援緊急給付金では周知、応募、採用のスキームをスムーズに行い、素早い支援につなげたことは評価できる。

第5 地域貢献及び国際交流に関する目標

評価結果 B 年度計画を概ね順調に実施している。

評価対象項目の合計13項目のうち、3以上の割合が7割5分以上であることから、大項目評価としてはB評価と認められる。

[小項目評価結果]

	評価対象項目数	1 大幅に下回っている	2 十分に実施していない	3 順調に実施している	4 上回って実施している
地域貢献に関する目標	8	1	0	7	0
国際交流に関する目標	5	1	0	4	0
合計	13	2	0	11	0

【特記事項】

1 地域貢献に関する目標

(1) 地域社会との連携・協働

ア 1週間開催された展覧会に120名の市民が来場したことは評価できる。また尾道に関する掌編怪談作品を募集し、広島県外からも多くの応募があったことや、尾道商業高校で国語の授業の課題として生徒に取り組んでもらうなど尾道市内・市外に関わらず広く尾道の地域理解の機会を提供できたことは評価できる。

(2) 地域への学習機会の提供

ア コロナ禍により尾道文学談話会は中止となったが、「尾道文学談話会会報11号」を刊行し、教員と学生の研究成果を公開す

るとともに、行政機関を中心に同会報を配布することで、教育・研究の社会還元と地域貢献を实践したことは評価できる。

2 国際交流に関する目標

(1) グローバル化の推進

ア コロナ禍において対面形式での企画は行えなかったものの、留学生向けのオンライン形式での歓送迎会を2回実施し、双方向での意思の疎通が行える環境の充実に取り組んだことは評価できる。

第6 業務運営の改善及び効率化に関する目標

評価結果 A 年度計画を順調に実施している。

評価対象項目の合計5項目のうち、3又は4の割合が100%であることから大項目評価としてはA評価と認められる。

[小項目評価結果]

	評価対象項目数	1 大幅に下回っている	2 十分に実施していない	3 順調に実施している	4 上回って実施している
業務運営の改善及び効率化に関する目標	5	0	0	5	0
合計	5	0	0	5	0

【特記事項】

(1) 教育研究組織の充実

ア 各学科において、3ポリシーに対する検証や文言調整等が行われており、今後も有効に機能するよう検証していただきたい。

(2) 業績評価制度の確立

ア 費用対効果も考慮しながら検討を進めてもらいたい。

(3) 事務処理の改善・効率化

ア コロナ禍において遠隔講義等全業務について見直しを図り、各部局が連携し、全学で対応したことは評価できる。

第7 財務内容の改善に関する目標

評価結果 A 年度計画を順調に実施している。

評価対象項目の合計4項目のうち、3又は4の割合が100%であることから大項目評価としてはA評価と認められる。

[小項目評価結果]

	評価対象項目数	1 大幅に下回っている	2 十分に実施していない	3 順調に実施している	4 上回って実施している
財務内容の改善に関する目標	4	0	0	4	0
合計	4	0	0	4	0

【特記事項】

1 財務内容の改善に関する目標

(1) 資源の適正配分

ア 新型コロナウイルス感染症対策に係る経費について、必要な事業へ予算重点化を図ったことは評価できる。

(2) 外部資金等の獲得

ア 地域からのニーズに応え、受託研究件数の10%以上の増加に向け取り組むという目標に対しての実績として前年度の2倍の件数となっていることは評価できる。

第8 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

評価結果 A 年度計画を順調に実施している。

評価対象項目の合計4項目のうち、3又は4の割合が100%であることから大項目評価としてはA評価と認められる。

[小項目評価結果]

	評価対象項目数	1 大幅に下回っている	2 十分に実施していない	3 順調に実施している	4 上回って実施している
自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	4	0	0	4	0
合 計	4	0	0	4	0

【特記事項】

1 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

(1) 自己点検・評価の充実

ア 準備年を前に研修をオンラインで実施した積極的な姿勢は評価できる。

(2) 情報公開及び広報活動の推進

ア 学生に身近な Instagram や LINE の新設や SNS 発信の機能強化を達成できたことは評価できる。

イ 学外メディアも活用した広報活動により積極的に情報発信したことは評価できる。

ウ コロナ禍において感染対策に配慮しながら学生の活動に積極的に取り組んだことは評価できる。

第9 その他業務運営に関する重要目標

評価結果 A 年度計画を順調に実施している。

評価対象項目の合計5項目のうち、3又は4の割合が100%であることから大項目評価としてはA評価と認められる。

[小項目評価結果]

	評価対象項目数	1 大幅に下回っている	2 十分に実施していない	3 順調に実施している	4 上回って実施している
その他業務運営に関する重要目標	5	0	0	5	0
合計	5	0	0	5	0

【特記事項】

(1) 施設・設備の整備と活用

ア 計画的な施設の維持管理に努めていただきたい。

(2) リスクマネジメントの強化及び法令遵守の推進

ア 年次有給休暇を計画的に取得できるよう引き続き調整していただきたい。また、過重労働防止のための報告書と実態に差異がないことの把握に努めていただきたい。

イ 感染防止対策について遠隔授業、施設利用制限、テレワーク等の取組を実施したことは評価できる。また、他部門ではオンラインによる研修により目標を達成していることから、研修方法についてその時の情勢により工夫していただきたい。